

3 March

16、21日 農学部が高島屋大阪店の「大学は美味しい!!フエア」に出展

20日 沖縄で「卒業生・同窓生フォーラム・アップセミナー」を開催

21日 法学部と台湾・高雄大学法学院が学生交流協定を締結

22日 理学部附属臨海実験所で課外活動所「飛沫(しぶき)荘」の開所式

23日 ノーベル化学賞受賞者の根岸英一氏に「名誉博士」の称号授与。講演会を開催

25日 2010年度学位記授与式を挙げる



2010年度学位記授与式を桃太郎アリーナにて執り行い、学部・研究科等の卒業生・修了生あわせて3391人が新たな一歩を踏み出した。

29日 国際交流会館が完成

海外から訪れた研究者や留学生のための宿泊・交流施設「岡山大学国際交流会館」が完成し、開所式を行った。



津島地区の中央図書館北側に位置し、鉄骨造3階建て・延床面積約2170平方メートル。宿泊棟と交流棟で構成する。宿泊棟には研究者夫婦向け14、単身研究者向け33、単身留学生向け18の居室があり、ベッド、机、椅子、家電製品、インターネット回線を完備。交流棟には会議室、100人収容可能な交流ラウンジを設け、地域の方との交流イベントの場としても活用する。

29日 グッドジョブ支援センター専用の作業室が完成



岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

4 April

1日 理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定される

8日 2011年度入学式を挙げる
2011年度入学式が桃太郎アリーナであり、学部・大学院生ら計3590人がそれぞれの目標を胸に新たなスタートを切った。



13日 「岡山大学・フエ大学院特別コース」3期生と里親の対面式を開催

19日 定例記者発表を開催

27日 おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)が開所

本学と岡山県、産業界が連携してがん治療薬の研究開発などに取り組む拠点「おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)」が鹿田地区に開所した。

OMICは2009年度科学技術振興機構(JST)地域産学官共同研究拠点整備事業として整備を進めていたもので、分子イメージング、インキュベーション、動物実験の3部門で構成。がん細胞や薬剤の動きを生体をつげず映し出す「分子イメージング」技術を核に、新医療産業創出を目指す。岡山大病院における臨床研究への橋渡しや、理化学研究所との連携大学院コースを通じた人材育成にも取り組む。



5 May

14日 資源植物科学研究所の一般公開を開催

26日 定例記者発表を開催

28日 東日本大震災の被災者を励ます宇宙大麦の収穫体験イベントを開催

資源植物科学研究所は28日群馬県太田市で宇宙を旅した大麦の収穫体験イベントを行い、市内に避難している東日本大震災の被災者らを招待した。

同研究所とサツポロビルが社会貢献の一環として企画。2006年に5カ月間、宇宙空間に滞在した大麦の「子孫」を栽培する同社群馬工場の実験ほ場で、親子ら約100人が刈り取りに挑戦した。収穫後は宇宙大麦の子孫で作った宇宙麦茶で乾杯した。



6 June

4日 学長特別補佐の建築家・妹島和世氏と西沢立衛氏が講演。鹿田地区に新ホールを建設する計画を発表



9日 岡山大病院で歯の衛生週間イベントを開催

10日 法科大学院生による無料法律相談スタート(9月2日まで、8月を除く毎週金曜日)



臨床成果

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授(生化学)らは光合成において光エネルギーを利用し、水を分解して酸素を発生させる反応の謎を解明した。人工光合成の実現につながる発見。大阪市立大学の神谷信夫教授との共同研究で、英科学誌「ネイチャー」電子版に掲載。(4月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の山中寿朗准教授(地球化学)らのグループが、鹿児島湾の海底でレアメタル(希少金属)の一種「アンチモン」を多く含む鉱床を確認した。推定埋蔵量は90万トンで約25万の金も含まれるとみられる。(4月・定例記者発表)

■資源植物科学研究所の馬建鋒教授(植物栄養学)は毒性の強い重金属・カドミウムを無毒化する植物の遺伝子「TCHMA3」を南仏産のグンバイナスナで特定した。汚染土壌の浄化へ応用が期待される。The Plant Journalに掲載。(4月・定例記者発表)

■岡山大病院は、先天性の重い心臓疾患のある1歳の女児に、自身の心臓から取り出して培養した幹細胞を移植し、心筋を再生させる治療に成功。心臓幹細胞を使った小児への治療は世界初。移植1カ月後には心臓のポンプ機能が約10%向上した。治療は佐野俊二・心臓血管外科教授が細胞を採取、王英正・新医療研究開発センター教授が培養後、大月審一・小児循環器科教授が心臓カテーテルで移植した。(5月・臨時記者発表)

■埋蔵文化財調査研究センターの山本悦世教授と光本順助教らは、医・歯学部構内の鹿田遺跡で2007年に出土した木製品(直径6.4センチ、高さ4.5センチ)を11世紀中期(平安時代後半)の猫形の操り人形と確認。動物操り人形としては国内最古とみられ、「傀儡(くぐつ)」と呼ばれる芸能民が使っていた可能性が高いという。(5月・定例記者発表)



■大学院教育学研究科の寺澤孝文教授は、自宅にインターネット環境や情報端末のない子どもに対して、紙教材とインターネットを融合させて双方向の個別学習支援を行う「遠隔支援システム」を開発した。(5月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の上原孝教授(神経薬理学)らは細胞内の一酸化窒素(NO)の濃度が、脳梗塞の発症時などに神経細胞生死の運命を決める一因であることを世界で初めて突き止めた。米科学アカデミー紀要電子版に掲載。(6月・臨時記者発表)